

(様式第10)

厚生労働大臣

殿

府病成が4,1881
平成29年1
地方独立行政法人大阪府立
理事長 遠山正

大阪国際がんセンターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成28年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒541-8567 大阪府大阪市中央区大手前3丁目1番69号
氏 名	地方独立行政法人大阪府立病院機構

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

3 所在の場所

〒541-8567 大阪府大阪市中央区大手前3丁目1番69号	電話(06)6945-1181
--------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科
4腎臓内科		8代謝内科
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 2小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 5皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 8産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 血液内科 2 脳神経内科 3 頭頸部外科 4 形成外科 5 内分泌代謝内科 6 臨床検査科 7 病理診断科 8 リハビリテーション科 9 腫瘍皮膚科 10腫瘍内科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	500床	500床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	139 人	48.4人	187.4人	看護補助者	31 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	1 人	0.2 人	1.2 人	理学療法士	7 人	臨床検査技師	63 人
薬 剤 師	36 人	4.7 人	40.7 人	作業療法士	3 人	衛生検査技師	1 人
保 健 師	1 人	人	1.0 人	視能訓練士	人	その他	人
助 産 師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	541 人	11.6人	552.6人	臨床工学士	8 人	医療社会事業従事者	5 人
准看護師	1 人	5.0 人	6.0 人	栄 養 士	人	その他の技術員	2 人
歯科衛生士	1 人	0.8 人	1.8 人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	111人
管理栄養士	4 人	2.8 人	6.8 人	診療放射線技師	50 人	その他の職員	88 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	12 人	眼 科 専 門 医	人
外 科 専 門 医	27 人	耳鼻咽喉科専門医	5 人
精 神 科 専 門 医	1 人	放射線科専門医	11 人
小 児 科 専 門 医	人	脳神経外科専門医	2 人
皮 膚 科 専 門 医	人	整形外科専門医	5 人
泌尿器科専門医	5 人	麻 酔 科 専 門 医	10 人
産婦人科専門医	6 人	救 急 科 専 門 医	1 人
		合 計	85 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (総長 松浦 成昭) 任命年月日 平成26年 4月 1日

平成26年4月に成人病センターの総長に着任して以来、施設の最高責任者として病院長を指揮して安全管理体制を統括している。平成28年12月からは医療安全管理委員会の委員として加わり、医療安全管理体制を実践レベルでもけん引している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	434.2人	0人	434.2人
1日当たり平均外来患者数	1067.9人	15.45人	1083.3人
1日当たり平均調剤数	入院763.61	外来104.7	剤
必要医師数			108人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			15人
必要(准)看護師数			255人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	367.6m ²	鉄筋コンクリート	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 88.31 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 26.6 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	389.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 免疫統合型分析装置 全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	73.49 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 迅速微生物同定検査装置 全自動同定感受性検査システム			
病理検査室	426.87m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 免疫組織染色システム 液状化検体細胞診システム			
病理解剖室	85.45 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、臓器撮影台			
研究室	3818.03 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 質量分析装置、自動細胞解析装置			
講義室	267.29m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	195人
図書室	195.61m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	600冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	100.2%	逆紹介率	189.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数		6,584人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,931人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		256人
	D: 初診の患者の数		6,822人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
北村 温美	大阪大学医学部 附属病院 中央クオリティ マネジメント部 副部長	○	大学病院において医療安全管理に必要な実質的な業務の従事経験を有するため。	有・ 無	1
三浦 潤	弁護士		主に民事部の裁判官として損害賠償請求を通じ数多くの医療事故事案の審理経験を有するため。	有・ 無	1
三木 祥男	大阪がん患者 団体協議会 世話人代表		府域のがん患者と家族のQOL向上に向けた豊富な活動経験を有するため。	有・ 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法	ホームページ

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	11人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法	1人
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法	9人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	3人
S-1内服投与、オキサリプラチン、静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法	1人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
カペシタビン内服投与、シスプラチン静脈内投与及びドセタキセル腹腔内投与の併用療法	1人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法	4人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツゾマブ静脈内投与の併用療法	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	覚醒下開頭術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 新たな神経脱落症状を呈すること無く、脳腫瘍の拡大摘出を可能とする。			
医療技術名	早期膵癌発見のための膵精密超音波検査	取扱患者数	1167人
当該医療技術の概要 早期の膵癌を発見するために、消化管ガスの影響を減弱させることで、超音波の診断精度を向上させた検査			
医療技術名	食道癌に対するRoux enY付加胃管再建	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 食道切除後の胃管再建法の新しい工夫:十二指腸離断およびRoux enY付加胃管再建をすることで術後消化管の逆流を防止する。			
医療技術名	胃癌センチネルリンパ節生検	取扱患者数	20人
胃癌に対して術中腹腔鏡下にICG蛍光観察法によるセンチネルリンパ節生検を行うことで、従来よりも縮小手術が可能となった。			
医療技術名	T1,T2直腸癌に対する低侵襲治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 T1, T2下部直腸癌に対して、局所切除および術後化学放射線療法を併用することで低侵襲治療が可能となった。			
医療技術名	進行膵癌に対する術前化学放射線療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 切除可能進行膵癌に対して術前化学放射線療法を行うことで、切除率および予後が向上した。			
医療技術名	膵臓IPMNに対する分割細胞診	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 膵臓IPMNに対して術中に分割細胞診を用いることで適切な膵切除範囲の決定が可能となった。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症		56	ベーチェット病	
2	筋萎縮性側索硬化症		57	特発性拡張型心筋症	19
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	19
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺		60	再生不良性貧血	24
6	パーキンソン病	10	61	自己免疫性溶血性貧血	
7	大脳皮質基底核変性症		62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	22
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	
11	重症筋無力症	3	66	IgA腎症	
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	2	68	黄色靱帯骨化症	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー		69	後縦靱帯骨化症	4
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クローウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	
17	多系統萎縮症		72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	9	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	
21	ミトコンドリア病		76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	2	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎形成症	
28	全身性アミロイドーシス	4	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	1
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	1
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	
34	神経線維腫症		89	リンパ管筋腫症	
35	天疱瘡		90	網膜色素変性症	1
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)		92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	15
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	
40	高安動脈炎	3	95	自己免疫性肝炎	
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	
42	結節性多発動脈炎		97	潰瘍性大腸炎	11
43	顕微鏡的多発血管炎		98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症		99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ		101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	1	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFE症候群	
49	全身性エリテマトーデス		104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	1	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症		106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病		107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群		108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病		109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110	ブラウ症候群	

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	161		家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162		類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	
113	筋ジストロフィー	163		特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164		眼皮腐白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165		肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166		弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	167		マルファン症候群	
118	脊髄腫瘍	168		エーラス・ダンスロス症候群	
119	アイザックス症候群	169		メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	170		オキシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	171		ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症	172		低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173		VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174		那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175		ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	176		コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	177		有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178		モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179		ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	180		ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病	181		クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺	182		アペール症候群	
133	メビウス症候群	183		ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184		アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	185		コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症	186		ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	187		歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	188		多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	189		無脾症候群	
140	ドラベ症候群	190		鯉耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191		ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん	192		コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193		ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	194		ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	195		ヌーナン症候群	
146	大田原症候群	196		ヤング・シンブソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	197		1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198		4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199		5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群	200		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201		アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群	202		スミス・マジニス症候群	
153	難治顔回部分発作重積型急性脳炎	203		22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204		エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群	205		脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	206		脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	207		総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	208		修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	209		完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	210		単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	260	システロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイトミクロン血症	
215	ファロー四徴症	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群	267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ホローゼ症候群	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型	289	クローンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症	292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症	293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症	294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症	295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症	296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型	297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型	298	遺伝性肺炎	
251	尿素サイクル異常症	299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症	300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全	301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症	302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病	304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病	305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクロームステんかん		321	非ケトosis型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪脈蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料(7:1)	・ 医師事務作業補助体制加算1(20:1)
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ 無菌治療室管理加算2
・ 診療録管理体制加算1	・ 歯科外来診療環境体制加算
・ 急性期看護補助体制加算(50:1)	・
・ 地域加算 2級地域	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 感染防止対策地域連携加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ 退院調整加算1	・
・ 病棟薬剤業務実施加算	・
・ データ提出加算2	・
・ 特定集中治療室管理料3	・
・ 入院時食事療養(I)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 糖尿病合併症管理料	・ 胃瘻造設術
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・ がん患者指導管理料1・2・3	・ 腹腔鏡下肝切除術・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除,1区域切除(外側区域切除を除く)2区域切除及び3区域切除以上のもの)
・ 外来緩和ケア管理料	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 移植後患者指導管理料(造血幹移植後)	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 腹腔鏡下小切前立腺悪性腫瘍手術
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 外来放射線照射診療料	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・ ニコチン依存症管理料	・ 輸血管理料Ⅱ
・ がん治療連携計画策定料1	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 薬剤管理指導料	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 医療機器安全管理料1・2	・ 病理診断管理加算2
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 麻酔管理料(Ⅰ)(Ⅱ)
・ HPV核酸検出	・ 放射線治療専任加算
・ 検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)	・ 外来放射線治療加算
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 高エネルギー放射線治療
・ 時間内歩行試験・シャトルウォーキングテスト	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 神経学的検査	・ 一回線量増加加算
・ 乳房MRI撮影加算	・ 画像誘導放射線治療(IGRT)加算
・ CT透視下気管支鏡検査加算	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 画像診断管理加算2	・ 直線加速器による定位放射線治療
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 心臓MRI撮影加算	・ う蝕歯無痛的窩洞形成加算
	・ 手術時歯根面レーザー応用加算
	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの))

・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ 外来化学療法加算1	
・ 無菌製剤処理料1・2	
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 I	
・ 運動器リハビリテーション料 I	
・ 呼吸器リハビリテーション料 I	
・ がん患者リハビリテーション料	
・ リンパ浮腫複合的治療料	
・ 皮膚悪性腫瘍切除術における悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術含む)及び脳刺激装置交換術	
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	
・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	
・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)	
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	
・ 大動脈バルーンパンピング法(LABP法)	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
バイオバンクの構築と臨床情報データベース化	東山 聖彦	病院	15,697,637	補 ○委	AMED
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期hANP投与の多施設共同ランダム化第Ⅱ相比較試験	東山 聖彦	病院	0	補 ○委	AMED
食道亜全摘術を行う食道癌患者における急性肺合併症に対するOSK-0028の有効性及び安全性の検討(第Ⅱ相試験)	矢野 雅彦	病院	3,000,000	補 ○委	AMED
臨床病期Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第Ⅲ相試験	矢野 雅彦	病院	640,000	補 ○委	AMED
膵臓癌に対する術前化学放射線療法の高精度化	手島 昭樹	放射線治療科	3,900,000	補 ○委	文部科学省
全国的な放射線治療情報の収集、解析、公開の為にweb型データベースシステムの構築	手島 昭樹	放射線治療科	150,000	補 ○委	文部科学省
全国重粒子線治療症例の登録および臨床評価	手島 昭樹	放射線治療科	0	補 ○委	AMED
がん診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の運用と他がん登録との連携	手島 昭樹	放射線治療科	6,749,000	補 ○委	厚生労働省
高齢者の小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科	320,000	補 ○委	AMED
銀ナノ錯体バイオチップを用いた尿路上皮癌の超高感度診断法	西村 和郎	泌尿器科	1,500,000	補 ○委	文部科学省
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	西村 和郎	泌尿器科	210,000	補 ○委	AMED
頭頸部癌治療後QOLに関する多施設共同研究/頭頸部癌に対する機能温存・再建治療に関するシステムティック・レビュー	藤井 隆	耳鼻咽喉科	800,000	補 ○委	AMED
治験の実施に関する研究[5AL A]	藤原 義之	消化器外科	883,580	補 ○委	AMED
ESASプログラム実施可能性・汎用性の検討	藤原 義之	消化器外科	307,693	補 ○委	AMED
症例登録とプロトコル治療実施	藤原 義之	消化器外科	1,000,000	補 ○委	AMED
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	荒木 信人	整形外科	175,000	補 ○委	AMED
骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	荒木 信人	整形外科	300,000	補 ○委	国立がん研究センター
難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究	石原 立	消化管内科	250,000	補 ○委	AMED

小計 18

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
消化管内視鏡を用いた治療における標準治療確立のための多施設共同研究	石原 立	消化管内科	300,000	補 委	国立がん研究センター
STAT3シグナルにおけるVCP,UBL4A(GdX)の関与の検討	富田 裕彦	病理・細胞診断科	1,200,000	補 委	文部科学省
AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像(WSI)の収集基盤整備と病理支援システム開発	富田 裕彦	病理・細胞診断科	1,727,273	補 委	AMED
化学療法にて消失した大腸癌肝転移病変の、DW-MRIを用いた術前診断能の妥当性に関する研究	大植 雅之	消化器外科	800,000	補 委	AMED
膵癌幹細胞におけるc-mycネットワークの発現意義の解明と新規治療標的分子の探索	秋田 裕史	消化器外科	1,100,000	補 委	文部科学省
膵液中エクソソーム解析による膵臓に対する術前放射線併用化学療法の効果予測の検討	高橋 秀典	消化器外科	900,000	補 委	文部科学省
オートファジー制御による食道癌化学療法抵抗性克服の検討	宮田 博志	消化器外科	1,300,000	補 委	文部科学省
グレリンによる手術侵襲軽減のメカニズムの解明と臨床応用へ向けた投与方法の最適化	宮田 博志	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
高難度手術およびハイリスク症例の手術成績向上を目指したグレリン支持療法の開発	宮田 博志	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
側方骨盤リンパ節転移陽性の難治性下部直腸癌の予後改善を目指した治療法に関する研究	安井 昌義	消化器外科	100,000	補 委	AMED
直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究	安井 昌義	消化器外科	80,000	補 委	AMED
大腸がん肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究	安井 昌義	消化器外科	1,000,000	補 委	AMED
胆道癌の主病巣と進展・転移部における腫瘍進展因子と治療抵抗因子の相違に関する解析	小林 省吾	消化器外科	1,200,000	補 委	文部科学省
癌細胞由来エクソソームによる腫瘍血管新生および浸潤転移機構の解明	小林 省吾	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
患者組織由来脂肪幹細胞の臨床応用に向けた開発研究	三吉 範克	消化器外科	500,000	補 委	文部科学省
グレリンによる手術侵襲軽減のメカニズムの解明と臨床応用へ向けた投与方法の最適化	柳本 喜智	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
高難度手術およびハイリスク症例の手術成績向上を目指したグレリン支持療法の開発	柳本 喜智	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省

小計 17

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
アンメットメディカルニーズにおける抗がん薬のPK/PDに基づく最適化医療の実施	井岡 達也	消化器検診科	300,000	補 委	AMED
切除不能・術後再発胆道癌に対するFOLFIRINOX療法	井岡 達也	消化器検診科	1,500,000	補 委	AMED
高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/1-LV療法vsFLTAX療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試験	杉本 直俊	臨床腫瘍科	320,000	補 委	AMED
腫瘍循環器データベースの構築と抗がん剤による心毒性の評価および分子機序の解明	岡 亨	精密健康診断部	2,200,000	補 委	文部科学省
がん患者に対する血管新生阻害薬による心毒性の評価および分子機序の解明	塩山 渉	循環器内科	800,000	補 委	文部科学省
遺伝子/画像統合解析(Radiogenomics)による神経膠腫の画像分子診断	木下 学	脳神経外科	700,000	補 委	文部科学省
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究	木下 学	脳神経外科	500,000	補 委	AMED
予後不良の神経膠腫に対する標準治療の確立と希少癌組織のバイオバンクを目的とした多施設共同研究	木下 学	脳神経外科	0	補 委	AMED
放射線脳障害に対する抗HMGB1抗体を用いた新規治療法の開発	高垣 匡寿	脳神経外科	900,000	補 委	文部科学省
滑膜肉腫特異的融合遺伝子のin vivo機能解析及び創薬ターゲットの探索	王谷 英達	整形外科	400,000	補 委	文部科学省
DNAマイクロアレイを用いた肝動脈化学塞栓療法後の網羅的発現遺伝子解析	前田 登	放射線診断科	500,000	補 委	文部科学省
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果測定・予後予測)	榊原 充	肝胆膵内科	400,000	補 委	AMED
サイズ可変式非対称型高周波スネアの研究開発	竹内 洋司	消化管内科	505,200	補 委	経済産業省
大腸がん超高危険度群におけるがんリスク低減手法の最適化に関する研究	竹内 洋司	消化管内科	400,000	補 委	AMED
がん診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の運用と他が術後生存率に及ぼす手術時年齢の影響からみた高齢者に対する手術治療の適否	松浦 成昭	がん予防情報センター 病院兼務	100,000	補 委	AMED
院内がん登録および臓器がん登録と連携した診療科データの構築と活用に関する研究	宮代 勲	がん予防情報センター 病院兼務	1,100,000	補 委	文部科学省
	宮代 勲	がん予防情報センター 病院兼務	200,000	補 委	国立がん研究センター

小計 17

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
都道府県がん登録データの全国集計と既存がん統計の資料の活用によるがん及びがん診療動向	宮代 勲	がん予防情報センター 病院兼務	250,000	補 委	厚生労働省
がん検診ガイドラインと実施状況の格差改善に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター 病院兼務	200,000	補 委	国立がん研究センター
検診効果の最大化に資する、職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター 病院兼務	400,000	補 委	厚生労働省
研究者と自治体の協働による、がん検診受診率向上等、自分自身で健康を守るための国民の行動	中山 富雄	がん予防情報センター 病院兼務	1,000,000	補 委	厚生労働省
肺がん検診の有効性と実用化に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター 病院兼務	620,000	補 委	AMED

小計 5

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

総計 57

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1		別紙参照			Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
~					
70					
~					

計74件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

NO	著者	共著者(複数の場合は、『JF.』で続ける)	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年	月	所属	種別
1	Imamura F	Uchida J, Kukita Y, Kumagai T, Nishino K, Inoue T, Kimura M, Oba S, Kato K.	Monitoring of treatment responses and clonal evolution of tumor cells by circulating tumor DNA of heterogeneous mutant EGFR genes in lung cancer.	Lung Cancer	94		68	73	2016	4	呼吸器内科	Original Article
2	Ishizuya Y	Okusa T, Hatano K, Nakai Y, Nakayama M, Kakimoto K, Nishimura K	Desperation surgery for a chemorefractory lung lesion in a patient with an extragonadal germ cell tumor	International Cancer Conference Journal	5	3	154	157	2016	4(6)	泌尿器科	Case report
3	Matsuzaki K	Yoshida T, Kobayashi Y, Takeda K, Arai Y, Nakayama M, Kakimoto K, Tomita Y, Nishimura K	Squamous Cell Carcinoma Arising from Apararethral Region	Case Reports in Clinical Medicine	5	4	154	157	2016	4	泌尿器科	Case report
4	Hamada K	Takeuchi Y, Ishikawa H, Tonai Y, Matsuura N, Ezoe Y, Ishihara R, Tomita Y, Iishi H	Feasibility of cold snare polypectomy for multiple duodenal adenomas in patients with familial adenomatous polyposis: a pilot study	Digestive Diseases and Sciences	61	9	2755	2759	2016	4(9)	消化管内科	Original Article
5	Hamada K	Uedo N, Hanaoka N, Ryu Ishihara R, Oh Y	Endoscopic Mucosal Resection for Diagnosis of Infiltrating Gastric Cancer: A Case Report	the Journal of Gastroenterology and Hepatology	31	10	1670		2016	4(10)	消化管内科	Case report
6	Kato M	Michida T, Kusakabe A, Sakai A, Hibino C, Kato M, Tokuda Y, Kawai T, Hamano M, Chiba M, Maeda K, Yamamoto K, Naito M, Ito T	Safety and short-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in elderly patients	Endoscopy International Open	4	5	E521	E526	2016	5	消化管内科	Original Article
7	Kusumoto C	Ohira S, Miyazaki M, Ueda Y, Isono M, Teshima T	Effect of various methods for rectum delineation on relative and absolute dose-volume histograms for prostate IMRT treatment planning	Medical Dosimetry	41	2	136	141	2016	5	放射線治療科	Original Article
8	Kiyohara Y	Yoshino Y, Kubota S, Okuyama H, Endo H, Ueda Y, Kimura T, Kimura T, Kamiura S, Inoue M	Drug screening and grouping by sensitivity with a panel of primary cultured cancer spheroids derived from endometrial cancer.	Cancer Sci.	107	4	452	460	2016	4	婦人科	Original Article
9	shita	Shinsuke Kusakabe, Jun Toda, Kenji Ohshima, Hiroaki Masaie, Toshinari Yagi, Hitoshi Yoshida, Jun Ishikawa	Sequential onset of Varicella-Zoster Virus encephalomyelitis and progressive multifocal leukoencephalopathy in an allogeneic hematopoietic stem cell transplantation recipient	Experimental and Clinical Transplantation	E-pub		doi: 10.6002/ect.2016.0077		2016	12	血液・化学療法科	Case report
10	Kanesaka T	Uedo N, Higashino K, Takeuchi Y, Ishihara R	Traction-assisted endoscopic submucosal dissection of a rectal adenoma located on the anastomotic suture line	Gastrointest Endosc.	22	14	3845	3851	2016	5	消化管内科	Case report
11	Nagai K	Uedo N, Yamashina T, Matsui F, Matsuura N, Ito T, Yamamoto S, Hanaoka N, Takeuchi Y, Higashino K, Ishihara R, Iishi H	A comparative study of grasping-type scissors forceps and insulated-tip knife for endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer: a randomized controlled trial	Endosc Int Open	26	2	335	373	2016	5	消化管内科	Original Article
12	Hamada K.	Uedo N, Tomita Y, Iishi H	A bleeding gastric ulcer caused by anisakiasis	Ann Gastroenterol	29	3	378	378	2016	6	消化管内科	Case report
13	Hino A	Hitoshi Yoshida, Yuma Tada, Midori Koike, Ryota Minami, Hiroaki Masaie, Jun Ishikawa	Changes from imatinib mesylate to second generation tyrosine kinase inhibitors improve renal impairment with imatinib mesylate in chronic myelogenous leukemia	International Journal of Hematology	104	5	605	611	2016	11	血液・化学療法科	Original Article
14	Kato M	Ishihara R, Hamada K, Tonai Y, Yamasaki Y, Matsuura N, Kanesaka T, Yamamoto S, Akasaka T, Hanaoka N, Takeuchi Y, Higashino K, Uedo N, Iishi H	Endoscopic surveillance of head and neck cancer in patients with esophageal squamous cell carcinoma	Endoscopy International Open	4	7	E752	E755	2016	7	消化管内科	Original Article
15	Ueda K	Uedo N, Tomita Y, Ishihara R	Underwater endoscopic mucosal resection of a condyloma acuminatum of the anal canal	Annals of Gastroenterology	E-pub		doi: 10.20524/aog.2016.0095		2016	10	消化管内科	Case report
16	Kinoshita M	Sakai M, Arita H, Shofuda T, Chiba Y, Kagawa N, Watanabe Y, Hashimoto N, Fujimoto Y, Yoshimine T, Nakanishi K, Kanemura Y	Introduction of high throughput magnetic resonance T2-weighted image texture analysis for WHO grade 2 and 3 gliomas.	PLoS One	11	10	e0164268		2016	10	脳神経外科	Original Article
17	Yamasaki Y	Yoji Takeuchi, Minoru Kato, Noriya Uedo, Ryu Ishihara	Line-assisted complete closure of large gastric mucosal defects using multiple clip-and-line technique	VideoGIE	1	3	49	50	2016	11	消化管内科	Case report
18	Yamasaki Y	Ryu Ishihara, Noboru Hanaoka, Noriko Matsuura, Takashi Kanesaka, Tomofumi Akasaka, Minoru Kato, Kenta Hamada, Yusuke Tonai, Sachiko Yamamoto, Yoji Takeuchi, Koji Higashino, Noriya Uedo, Yuri Ito, Masahiko Yano and Hiroyasu Iishi	Pethidine hydrochloride is a better sedation method for pharyngeal observation by trans-oral endoscopy compared with no sedation and midazolam	Digestive Endoscopy	29	1	39	48	2017	1	消化管内科	Original Article
19	Kato M	Takeuchi Y, Yamasaki Y	Line-assisted complete closure of a large colorectal mucosal defect after endoscopic submucosal dissection	Digestive Endoscopy	28	6	686	686	2016	9	消化管内科	Case report
20	Matsuura N	Yoji Takeuchi, Tomita Yasuhiko	Inverted intramucosal carcinoma in the sigmoid colon.	Digestive endoscopy	28		685	686	2016	6	消化管内科	Case report
21	Akasaka T	Y. Takeuchi, Y. Yamasaki, N. Hanaoka, N. Uedo, R. Ishihara, H. Iishi	"Take your polyp for a walk": endoscopic retrieval of multiple colon polyps using a clip and line	Endoscopy	SD1		E291	E292	2016		消化管内科	Case report
22	Imamura F	Uchida J, Kukita Y, Kumagai T, Nishino K, Inoue T, Kimura M, Kato K.	Early responses of EGFR circulating tumor DNA to EGFR tyrosine kinase inhibitors in lung cancer treatment.	Oncotarget	7	44	71782	71789	2016	9(11)	呼吸器内科	Original Article
23	Imamura F	Takako Inoue, Madoka Kimura, Kazumi Nishino, Toru Kumaga	A long-term survivor of non-small-cell lung cancer harboring concomitant EGFR mutation and ALK translocation	Respiratory Medicine Case Reports	19		137	19	2016	9	呼吸器内科	Original Article

NO	著者	共著者(複数の場合は、[、]、]で続ける)	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年	月	所属	種別
24	Imanaka K	Ohkawa K, Tatsumi T, Katayama K, Inoue A, Imai Y, Oshita M, Iio S, Mita E, Fukui H, Yamada A, Hijioka T, Inada M, Doi Y, Suzuki K, Kaneko A, Marubashi S, Ito Y, Fukui K, Sakamori R, Yakushijin T, Hiramatsu N, Hayashi N, Takehara T, and the Osaka Liver Forum.	Impact of branched-chain amino acid supplementation on the survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated with sorafenib; a multicenter retrospective cohort study	Hepatol Res	46	10	1152	1157	2016	9	肝胆膵内科	Original Article
25	Ishihara R	Oyama T, Abe S, Takahashi H, Ono H, Fujisaki J, Kaise M, Goda K, Kawada K, Koike T, Takeuchi M, Matsuda R, Hirasawa D, Yamada M, Kodaira J, Tanaka M, Omae M, Matsui A, Kanesaka T, Takahashi A, Hirooka S, Saito M, Tsuji Y, Maeda Y, Yamashita H, Oda I, Tomita Y, Matsunaga T, Terai S, Ozawa S, Kawano T, Seto Y	Risk of metastasis in adenocarcinoma of the esophagus: A multicenter retrospective study in a Japanese population	J. Gastroenterol	E-pub		doi: 10.1007/s00535-016-1275-0		2016	10	消化管内科	Original Article
26	Yamasaki Y	Takeuchi Y, Uedo N, Hanaoka N, Higashino K, Ishihara R, Iishi H	Line-assisted complete closure of duodenal mucosal defects after underwater endoscopic mucosal resection	Endoscopy	49	Suppl 01	E37	E38	2017	2	消化管内科	Case report
27	Tonai Y	Ishihara R, Yamasaki Y, Kanesaka T, Yamamoto S, Akasaka T, Hanaoka N, Takeuchi Y, Higashino K, Uedo N, Tomita Y, Iishi H,	First Reports of Esophageal Adenocarcinoma with White globe appearance in Japanese and Caucasian Patients	Endoscopy International Open	4	10	1075	1077	2016	10	消化管内科	Case report
28	Hatano K	Okusa T, Ishizuya Y, Nakai Y, Nakayama M, Kakimoto K, Nishimura K	Postoperative early ultrasensitive prostate-specific antigen identifies patients at risk for biochemical recurrence in margin positive prostate cancers: a single-center study	Japanese Journal of Clinical Oncology	47	1	74	79	2017	1	泌尿器科	Original Article
29	Hamada K,	Uedo N, Hanaoka N, Ishihara R, Oh Y.	Gastrointestinal: Endoscopic mucosal resection for diagnosis of infiltrating gastric cancer: A case report.	J Gastroenterol Hepatol.		10	1670		2016	11	消化管内科	Case report
30	Yagi T	Sakamoto T, Nakai K, Tanizawa M, Okabe T, Hoshikawa N, Kohatada M, Kitagawa F, Hanya R, Kotani M	A Questionnaire-based Assessment of the Anxiety, Satisfaction and Discomfort Experienced by Japanese Cancer Patients during the Use of Central Venous Ports	Internal Medicine	55	17	2393	2399	2016	9	外来化学療法科	Original Article
31	Hamada K	Akasaka T, Kato M, Iishi H	Small bowel adenocarcinoma: a cause of persistent iron deficiency anemia or abdominal discomfort	Annals of Gastroenterology	E-pub		doi: 10.20524/aog.2017.0125.		2017	1	消化管内科	Case report
32	Yamashina T.	Yoji Takeuchi, Kengo Nagai, Noriko Matsuura, Takashi Ito, Mototsugu Fujii, Noboru Hanaoka, Koji Higashino, Noriya Uedo, Ryu Ishihara and Hiroyasu Iishi	Scissors-type knife significantly improved self-completion rate of colorectal endoscopic submucosal dissection: a single center prospective randomized trial	Digestive Endoscopy	E-pub		doi: 10.1111/den.12784		2017	1	消化管内科	Original Article
33	Yoshida H	Masaie H, Hino A, Ishikawa J	A new therapeutic option for progressive multifocal leukoencephalopathy after allogeneic hematopoietic transplantation	Journal of clinical infectious disease & practice	2	1			2017	1	血液・化学療法科	Original Article
34	Ishihara R	Matsuura N; Hanaoka N; Yamamoto S; Akasaka T; Takeuchi Y; Higashino K; Noriya Uedo N; Iishi H	Endoscopic imaging modalities for diagnosing invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma: a systematic review and meta-analysis	BMC Gastroenterology	17	1	24		2017	2	消化管内科	Original Article
35	Kato M	Takeuchi Y, Yamasaki Y, Arai M, Suzuki S, Iwatsubo T, Hamada K, Tonai Y, Shichijo S, Matsuura N, Nakahira H, Kanesaka T, Akasaka T, Hanaoka N, Higashino K, Uedo N, Ishihara R, Iishi H	Technical feasibility of line-assisted complete closure technique for large mucosal defects after colorectal endoscopic submucosal dissection	Endoscopy International Open	5	1	E11	E16	2017	1	消化管内科	Case report
36	Hamada K	Ishihara R, Yamasaki Y	The Very First Change of the Tongue with the Development of Cancer	European Journal of Case Reports in Internal Medicine	4	4			2017	2	消化管内科	Case report

NO	著者	共著者(複数の場合は、『Jf.』で続ける)	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年	月	所属	種別
37	Higashiyama M	Tokunaga T, Kusu T, Ishida H, Okami J, Kodama K	Prophylactic middle lobe fixation for postoperative pulmonary torsion	Asian Cardiovasc Thorac Ann	25	1	41	46	2017	1	呼吸器外科	Original Article
38	Outani H,	Hamada K, Takenaka S, Imura Y, Oshima K, Sotobori T, Naka N, Araki N, Yoshikawa H, Myoui A.	Radiofrequency ablation of osteoid osteoma using a three-dimensional navigation system.	J Orthop Sci.	21	5	678	682	2016	9	整形外科	Original Article
39	Achina A	Takegaki Masatoshi, Oe Hiroshi, Sakai Mio, Matsui Hiroshi, Nakanishi Katsuhiko, Ozaki Tomohiko, Fujimoto Yasunori, Yoshimine Toshiki, Nakanishi Katsuyuki, Kinoshita Manabu	Voxel-based lesion mapping of cryptogenic stroke in patients with advanced cancer: A detailed MRI analysis of distribution pattern.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	E-pub		doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2017.02.038		2017	3	脳神経外科	Original Article
40	Yamasaki Y	Noriya Uedo, Hiromitsu Kanzaki, Minoru Kato, Kenta Hamada, Kenji Aoi, Yusuke Tonai, Noriko Matsuura, Takashi Kanesaka, Takeshi Yamashina, Tomofumi Akasaka, Noboru Hanaoka, Yoji Takeuchi, Koji Higashino, Ryu Ishihara, Yasuhiko Tomita, and Hiroyasu Iishi	Investigation of Mucosal Pattern of Gastric Antrum using Magnifying Narrow Band Imaging in Patients with Chronic Atrophic Fundic Gastritis	Annals of gastroenterology	30	3	302	308	2017	3	消化管内科	Original Article
41	Hamada K	Akasaka T, Yamasaki Y, Ishihara R	Advanced Oropharyngeal Cancer Can Be Easily Missed During Esophagogastroduodenoscopy	European Journal of Case Reports in Internal Medicine	4	4			2017	2	消化管内科	Case report
42	Hamada K	Takeuchi Y, Akasaka T, Iishi H	Fundic gland polyposis associated with proton-pump inhibitor	European Journal of Case Reports in Internal Medicine	4	5			2017	2	消化管内科	Case report
43	Hashida N	Shamoto H, Maeda K, Wakabayashi H, Suzuki M, Fujii T	Rehabilitation and nutritional support for sarcopenic dysphagia and tongue atrophy after glossectomy: A case report	Nutrition	35		128	131	2017	3	リハビリテーション科	Case report
44	Inoue T	Madoka Kimura, Motohiro Tamiya, Kazumi Nishino, Toru Kumagai, and Fumio Imamura	Afatinib-induced severe esophagitis in a lung cancer patient with an activated epidermal growth factor receptor mutation: A case report	Respir Med Case Rep	20		111	112	2017	1	呼吸器内科	Case report
45	Wada Y	Miyoshi N (corresponding author), Ohue M, Yasui M, Sugimura K, Tomokuni A, Akita H, Kobayashi S, Takahashi H, Omori T, Fujiwara Y, Yano M.	Endoscopic marking clip with an IC tag and receiving antenna to detect localization during laparoscopic surgery	Surgical Endoscopy	31	7	3056	3060	2016(2017)	10(7)	消化器外科	Original Article
46	Fujino S	Miyoshi, N.(corresponding author), Ohue, M., Noura, S., Fujiwara, Y., Higashiyama, M., Yano, M.	Z skin incision method in reduced port surgery of colorectal cancer	Molecular and Clinical Oncology	4	4	611	615	2016	4	消化器外科	Original Article
47	Kishi K	Fujiwara Y, Yano M, Motoori M, Sugimura K, Takahashi H, Ohue M, Sakon M.	Usefulness of diagnostic laparoscopy with 5-aminolevulinic acid (ALA)-mediated photodynamic diagnosis for the detection of peritoneal micrometastasis in advanced gastric cancer after chemotherapy.	Surg Today	46	12	1427	1434	2016	12	消化器外科	Original Article
48	Kobayashi S	Tomokuni A, Takahashi H, Akita H, Sugimura K, Miyoshi N, Moon JH, Yasui M, Omori T, Ohue M, Fujiwara Y, Yano M, Sakon M.	The clinical significance of alpha-fetoprotein mRNAs in patients with hepatocellular carcinoma	Gastrointestinal Tumors	3	3	141	152	2017	3	消化器外科	Original Article

NO	著者	共著者(複数の場合は、[、]、[、]で続ける)	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年	月	所属	種別
49	Matsuda Y	Fujiwara Y, Kishi K, Okami J, Sugimura K, Motoori M, Miyoshi N, Noura S, Ohue M, Gotoh K, Marubashi S, Akita H, Takahashi H, Sakon M, Yano M.	Surgical resection of solitary omental metastasis from non-small cell lung cancer: Report of three cases.	Oncol Lett.	11	1	563	567	2016	1	消化器外科	Case report
50	Miyoshi N	Ohue M, Noura S, Yasui M, Sugimura K, Tomokuni A, Akita H, Kobayashi S, Takahashi H, Omori T, Fujiwara Y, Yano M.	Prognostic prediction models for colorectal cancer patients after curative surgical resection	International Surgery			on line		2016	7	消化器外科	Original Article
51	Miyoshi N	Ohue M, Yasui M, Noura S, Shingai T, Sugimura K, Akita H, Gotoh K, Marubashi S, Takahashi H, Okami J, Fujiwara Y, Higashiyama M, Yano M.	Novel prognostic prediction models for patients with stage IV colorectal cancer after concurrent curative resection	ESMO open	1	3	e000052		2016	5	消化器外科	Original Article
52	Miyoshi N	Fujino S, Ohue M, Yasui M, Noura S, Wada Y, Kimura R, Sugimura K, Tomokuni A, Akita H, Kobayashi S, Takahashi H, Omori T, Fujiwara Y, Yano M.	Standardized technique for single-incision laparoscopic-assisted stoma creation.	World J Gastrointest Endosc.	8	15	541	545	2016	8	消化器外科	Original Article
53	Motoori M	Yano M, Miyata H, Sugimura K, Saito T, Omori T, Fujiwara Y, Miyoshi N, Akita H, Gotoh K, Takahashi H, Kobayashi S, Noura S, Ohue M, Asahara T, Nomoto K, Ishikawa O, Sakon M.	Randomized study of the effect of synbiotics during neoadjuvant chemotherapy on adverse events in esophageal cancer patients.	Clin Nutr.	36	1	93	99	2017	2	消化器外科	Original Article
54	Noura S	Ohue M, Miyoshi N	Sentinel Node Navigation Surgery for Rectal Cancer: Indications for Lateral Node Dissection.	ICG Fluorescence Imaging and Navigation Surgery, Kusano M, et al, eds, Springer.			177	189	2016	4	消化器外科	Original Article
55	Noura S	Ohue M, Miyoshi N, Yasui M.	Significance of defect closure following transanal local full-thickness excision of rectal malignant tumors.	Mol Clin Oncol.	5	4	449	454	2016	10	消化器外科	Original Article
56	Noura S	Ohue M, Miyoshi N, Yasui M	Transanal minimally invasive surgery (TAMIS) with a GelPOINT® Path for lower rectal cancer as an alternative to transanal endoscopic microsurgery (TEM).	Mol Clin Oncol.	5	1	148	152	2016	7	消化器外科	Original Article
57	Ohue M	Iwasa S, Kanemitsu Y, Hamaguchi T, Shiozawa M, Ito M, Yasui M, Katayama H, Mizusawa J, Shimada Y; Colorectal Cancer Study Group/Japan Clinical Oncology Group	A Phase II/III randomized controlled trial comparing perioperative versus postoperative chemotherapy with mFOLFOX6 for lower rectal cancer with suspected lateral pelvic node metastasis: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1310 (PRECIOUS study)	Jpn J Clin Oncol	47	1	84	87	2017	1	消化器外科	Original Article
58	Omori T	Fujiwara Y, Moon J, Sugimura K, Miyata H, Masuzawa T, Kishi K, Miyoshi N, Tomokuni A, Akita H, Takahashi H, Kobayashi S, Yasui M, Ohue M, Yano M, Sakon M.	Comparison of Single-Incision and Conventional Multi-Port Laparoscopic Distal Gastrectomy with D2 Lymph Node Dissection for Gastric Cancer: A Propensity Score-Matched Analysis.	Ann Surg Oncol	23		supplement 5 S817	S824	2016	12	消化器外科	Original Article
59	Sueda T	Ohue M, Noura S, Shingai T, Nakanishi K, Yano M.	Prognostic significance of a preoperative magnetic resonance imaging assessment of the distance of mesorectal extension in clinical T3 lower rectal cancer	Surg Today	46	11	1249	1257	2016	11	消化器外科	Original Article
60	Sugimura K	Fujiwara Y, Omori T, Motoori M, Miyoshi N, Akita H, Gotoh K, Kobayashi S, Takahashi H, Noura S, Ohue M, Yamamoto T, Sakon M, Yano M.	Clinical importance of a transcription reverse-transcription concerted (TRC) diagnosis using peritoneal lavage fluids obtained pre- and post-lymphadenectomy from gastric cancer patients.	Surg Today	46	6	654	669	2016	6	消化器外科	Original Article

NO	著者	共著者(複数の場合は、『、』で続ける)	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年	月	所属	種別
61	Takahashi H	Hirofumi Akita, Akira Tomokuni, Shogo Kobayashi, Hiroaki Ohigashi, Yshiyuki Fujiwara, Masahiko Yano, Masato Sakon, Osamu Ishikawa	Preoperative Gemcitabine-based Chemoradiation Therapy for Borderline Resectable Pancreatic Cancer: Impact of Venous and Arterial Involvement Status on Surgical Outcome and Pattern of Recurrence.	Annals of Surgery	246	6	1091	1097	2016	11	消化器外科	Original Article
62	Yasui M.	Ikeda M, Miyake M, Ide Y, Okuyama M, Shingai T, Kitani K, Ikenaga M, Hasegawa J, Akamatsu H, Murata K, Takemasa I, Mizushima T, Yamamoto H, Sekimoto M, Nezu R, Doki Y, Mori M.	Comparison of bleeding risks related to venous thromboembolism prophylaxis in laparoscopic vs open colorectal cancer surgery: a multicenter study in Japanese patients.	Am J Surg.	213	1	43	49	2017	1	消化器外科	Original Article
63	Miyata H	Yano M, Yasuda T, Yamasaki M, Murakami K, Makino T, Nishiki K, Sugimura K, Motoori Mb, Shiraishi O, Mori M, Doki Y.	Randomized study of the clinical effects of omega-3 fatty acid-containing enteral nutrition support during neoadjuvant chemotherapy on chemotherapy-related toxicity in patients with esophageal cancer.	Nutrition	33		204	210	2017	1	消化器外科	Original Article
64	Miyata H	Yamasaki M, Makino T, Tatsumi M, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Takiguchi S, Mori M, Doki Y	Impact of number of [(18) F]fluorodeoxyglucose-PET-positive lymph nodes on survival of patients receiving neoadjuvant chemotherapy and surgery for esophageal cancer.	Br J Surg	103	1	97	104	2016	1	消化器外科	Original Article
65	Akasaka T	Y. Takeuchi, Y. Yamasaki, N. Hanaoka, N. Uedo, R. Ishihara, H. Iishi	"Take your polyp for a walk": endoscopic retrieval of multiple colon polyps using a clip and line	Endoscopy	48	Suppl 1	E291	E292	2016	9	消化管内科	Case report
66	Akasaka T	Takeuchi Y, Uedo N, Ishihara R, Iishi H.	"Underwater" endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal neoplasms.	Gastrointestinal Endoscopy	85	1	251	252	2017	1	消化管内科	Original Article
67	Hamada K	Uedo N, Tomita Y, Ishihara R.	Underwater endoscopic mucosal resection of a condyloma acuminatum of the anal canal.	Ann Gastroenterol	30	1	128	128	2017	2	消化管内科	Original Article
68	Kadokawa Y	Katayama K, Takahashi K, Fukushima N, Tanaka S, Taniguchi Y, Nawa T, Sakakibara M, Ohkawa K	The Effectiveness of a Liver Disease Education Class for Providing Information to Patients and Their Families	J Clin Med Res	9	3	207	212	2017	3	薬局	Original Article
69	Iwatasubo T	Noriya Uedo Kazunobu Ishibashi	Primary gastric choriocarcinoma developed in a Helicobacter pylori-negative patient	Digestive Endoscopy	29	3	392	393	2017	3	消化管内科	Case report
70	Hamada K	Takeuchi Y, Tamai N	A case of sessile serrated adenoma/polyp observed with autofluorescence imaging	Digestive Endoscopy	Epub		doi:10.1111/doi.n.12630		2016	4	消化管内科	Case report
71	Matsuura N	Takeuchi Y, Fujii M, Yasui M, Ishihara R, Tomita Y, Iishi H	Endoscopic appendectomy showing an intramucosal carcinoma.	Gastrointest Endosc.	85	1	266	267	2017	1	消化管内科	Case report
72	Uedo N	Gotoda T, Yoshinaga S, Tanuma T, Morita Y, Doyama H, Aso A, Hirasawa T, Yano T, Uchita N, Hooi Ho GS, Hsieh PH	Differences in routine esophagogastroduodenoscopy between Japanese and international facilities: a questionnaire survey	Digestive Endoscopy	28	Sup	16	24	2016	4	消化管内科	Original Article
73	Sakakibara H	Ohkawa K, Imanaka K, Miyazaki M, Nawa T, Kimura H, Abe Y, Katayama K	Quick and stable parallel puncture of hepatic tumors using a double-barreled needle direction system for ultrasound-guided bipolar radiofrequency ablation.	Hepatol Res	46	11	1152	1157	2016	10	肝胆臓内科	Case report
74	Kinoshita M	Arita H, Okita Y, Kagawa N, Kishima H, Hashimoto N, Tanaka H, Watanabe Y, Shimosegawa E, Hatazawa J, Fujimoto Y, Yoshimine T	Comparison of diffusion tensor imaging and 11C-methionine positron emission tomography for reliable prediction of tumor cell density in gliomas.	J Neurosurg	125	5	1136	1142	2016	11	脳神経外科	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の目的や委員構成及び会議の開催要件、迅速審査、審査結果の報告手続きなどを定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年4回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、職員からの申告、利益相反委員会の運営、規則に違反した場合の措置などを定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・ 研修の主な内容 ①H28年8月24日 モニタリング講習1 「基本編」 ②H28年9月6日 ゲノムセミナー 「ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理的対応について」 ③H28年9月27日 モニタリング講習2 「実務編」 ④H28年10月4日 COIセミナー 「医学研究と利益相反 ～マネジメントの目的と必要性～」 ⑤H28年12月2日 コンプライアンス研修 「不適切会計事案に伴うコンプライアンス研修」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院はがん専門病院であり、小児がんなど一部のがんを除くほぼすべての臓器のがんの診断、治療、管理について研修することができる。

【研修プログラム】

1. 内科、外科、耳鼻科、整形外科、麻酔科など1階部分に相当する基本領域の専門医修練施設の認定を受けており、それぞれのプログラムに従って研修を行っている。
2. 消化器外科、呼吸器外科、頭頸部がん、消化器病など2階部分に相当する専門医についても多くの学会認定を受けており、それぞれ所定のプログラムに沿って研修を行っている。
3. 3階建て部分に相当する日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設Aや日本食道学会食道外科専門医認定施設の認定もを受けており、それらの研修が可能である。
4. 上記以外に、内視鏡外科手術症例が豊富であり内視鏡外科技術認定医取得のための修練が可能である。また保険適応外も含めてロボット支援手術も積極的に実施しており、ロボット支援手術の研修が可能である。

【指導体制】

各臓器・領域別に修練責任者、指導医、専門医が配置されている。また、集学的治療が必要な症例には、キャンサーボードをはじめ複数診療科・部署が連携して診療に当たっており、診療科の垣根を超えた研修指導を行っている。さらに、がん診療を側面から支えるべく腫瘍循環器内科や栄養腫瘍科、感染症内科を設置しており研修医の指導に加わっている。教育行事としては、定期的な症例検討会以外にM&Mカンファ、CPCを適宜開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	41.4人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
石原 立	消化管内科	主任部長	25年	
大川 和良	肝胆膵内科	主任部長	36年	
今村 文生	呼吸器内科	主任部長	33年	
大植 雅之	消化器外科	主任部長	36年	
岡見 次郎	呼吸器外科	主任部長	37年	
中山 貴寛	乳腺・内分泌外科	主任部長	36年	
和田 信	心療・緩和科	部長	25年	
中 紀文	整形外科	主任部長	31年	
木下 学	脳神経外科	部長	17年	
上浦 祥司	婦人科	主任部長	34年	
藤井 隆	頭頸部外科	主任部長	31年	
中西 克之	放射線診断・IVR科	主任部長	31年	
手島 昭樹	放射線腫瘍科	主任部長	37年	
谷上 博信	麻酔科	主任部長	31年	
今村 文生	副部長	部長	33年	
中塚 伸一	病理・細胞診断科	主任部長	23年	
石川 淳	血液内科	主任部長	31年	
藤田 雅史	腫瘍循環器科	主任部長	33年	
山崎 知行	臨床検査科	主任部長	31年	
西村 和郎	泌尿器科	主任部長	30年	
石橋 美樹	歯科	副部長	19年	

為政 大幾	腫瘍皮膚科	主任部長	35年
-------	-------	------	-----

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)
看護師、薬剤師等の高度専門研修を実施している。 【看護師】・がん専門看護師コース研修 (2ヵ年) がん専門看護師の継続的な養成を目的に実施 毎年10名程度 延べ修了者220名以上 ・長期自主研修 (看護系大学院等へ休職派遣 半年～2年間) がん化学療法、緩和ケア・がん性疼痛等の専門・認定看護師の継続的な養成を目的 に実施 毎年2～3名 【薬剤師】・海外短期研修 海外の最先端医療機関 (28年度は米国南カリフォルニア大学病院) の薬剤業務の 調査研究 1名 ・抗がん剤暴露対策研修 医療従事者向けに高度がん医療に関する専門研修を実施 28年度はオゾン安全 キャビネットをテーマに取り上げ実施 受講者約300名 (医師、看護師含む)
② 業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)
・臨床研究センター院内セミナー 臨床研究に係わる職員を対象に医療倫理、利益相反、モニタリング制度等をテーマに年3 回実施 ・個人情報保護・守秘義務研修 全職種を対象に年1回実施
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
【研修・見学の受入れ】 ・医療技術研修 主に消化官内科や肝胆膵内科における内視鏡 (EUS含む) による診断治療や肝穿刺治療 等 28年度は国内21人、海外15人を受入れた。 【専門研修】 ・がん対策推進計画におけるがん医療の質評価 実施日：平成29年1月12日 受講人数：83名 内容：全国のがん診療拠点病院や大学病院などの診療情報管理士、研究者などのがん医療 従事者向けに、がん医療の質評価に関する研修会を開催した。がん登録資料及びDPC やレセプトデータを活用し、標準治療実施割合や生存率の施設間格差に関しての研 究報告および統計の見方に関する講演を行った。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部 主任部長 松永隆	
管理担当者氏名	総務・人事マネージャー 河村 徳次、経営改革マネージャー 畑中知子 薬局長 坂上 嘉浩、放射線診断・IVR科主任部長 中西 克之	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務・人事グループ	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一カルテ方式として、一つのID番号により病歴管理室で集中管理を行っている。 エックス線写真は、放射線診断科で集中管理をしている。 その他、電子カルテシステムにもデータが保存されており、医療情報部が管理している。 【診療録の病院外への持ち出し】 診療録の病院外への持ち出しは認めていない。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬局	
		手術記録	中央手術室・病歴管理室	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	病歴管理室	
		エックス線写真	放射線診断・IVR科	
		紹介状	病歴管理室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務・人事グループ	従業者数を明らかにする帳簿は人事管理システムで管理をしている。高度の医療の提供の実績はコンピューター管理等を行っている。 その他についてはファイルに綴じて保管している。
		高度の医療の提供の実績	医療情報部	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	臨床研究センター	
		高度の医療の研修の実績	総務・人事グループ	
		閲覧実績	医事グループ	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事グループ	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営改革グループ 薬局	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部門	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染症センター	院内感染対策のための指針はファイルに綴じて保管している。 その他、研修の実施状況や各種実施状況については年度毎にファイルに綴じて保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染症センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染症センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染症センター	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門 薬局	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	泌尿器科部長室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	C E 室 (臨床工学技士室)	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	C E 室 (臨床工学技士室)	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	C E 室 (臨床工学技士室)			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門 人事グループ
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染症センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		監査委員会の設置状況	総務グループ
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事グループ 医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	患者総合相談室
職員研修の実施状況	医療安全管理部門 (その他医療機器医薬品)		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	医療情報部主任部長 松永 隆		
閲覧担当者氏名	医事グループ主査 久保 忠臣		
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ	(閲覧場所)	医療情報部
閲覧の手続の概要 医事グループあてに閲覧申請を行い、医療情報部で記録を確認し、医療情報部で閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 医療安全管理体制、医療安全研修、インシデント報告、医療事故への適切な対応、医療従事者と患者の情報共有、高難度医療技術等を用いた医療の提供、監査委員会、特定機能病院間相互のピアレビュー、患者からの相談への対応、医療安全管理マニュアルの作成・更新及び医療安全管理に関する指針の公開	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">設置の有無（☑・無）開催状況：年 13回活動の主な内容： 医療事故調査委員会の設置。 医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び患者等への対応。 重大な医療事故発生時の速やかな発生原因の分析と再発防止策の立案、実施、並びに職員への周知。 院内全死亡症例及び管理者が定める水準以上の事象の報告の実施状況の確認、確認結果の管理者への報告。 院内全死亡症例及び管理者が定める水準以上の事象の報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導。 病院機構本部及び日本医療機能評価機構等への報告。 医療安全マニュアル等の作成・更新。 医療安全に関する職員の教育及び研修の企画・立案・評価。 医薬品に関する安全管理及び医療機器の保守点検・安全使用に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 28 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 全職員対象<ul style="list-style-type: none">第1回「インシデント報告、重大な医療事故発生時の対応」第2回「医療安全管理責任者からの報告」 「新・インシデント報告システム【ファントルくん】」第3回「深層理解に基づく医療安全」その他 「新規採用者医療安全研修」「新規採用者BSL研修」「ICLS研修」 「医薬品安全研修」「人工呼吸器・心電図モニター取り扱い研修」 「病棟・外来クラーク研修」5センター合同「医療コンフリクトマネジメント研修会」など	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備（☑・無）その他の改善のための方策の主な内容： 「医療安全管理ラウンド（医療安全全般）」「心電図モニター管理に関するラウンド」 「注射薬安全管理ラウンド」等 「がん救急」基本的知識の周知（Web掲示板への掲載、メール、RM会議等を通して） 刃物持ち込み禁止に関する説明・確認書等の作成と周知 三方活栓一体型輸液セットの導入、医療安全管理マニュアルの改訂 院内死亡症例検討会の調査、死亡症例検討会依頼 患者死亡時報告書の周知、DNARテンプレートの作成、金属スタイレットの廃止 日本医療機能評価機構発行の医療安全情報の周知 自施設のインシデント・アクシデント報告にもとづく医療安全情報の作成・発行 医療事故調査制度と医療事故初期対応要領の周知、重大な医療事故発生時の対応の周知 新インシデントレポートシステムの研修	

関連部署での多職種によるM&Mカンファレンス実施のための調整と対策の周知

(注) 前年度の実績を記入すること。

C

C

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
指針の主な内容： ・院内感染対策に関する基本的考え方 ・院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 ・院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 ・感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ・その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
活動の主な内容： ・病院長の注意喚起 ・感染症およびその対策上の問題点に関する報告書の検討 ・集団発生（アウトブレイク）対策の検討 ・予算有効活用への助言と確認 ・感染対策の戦略に対する助言と確認 ・感染症センターへの助言と支援	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12 回
研修の主な内容： 手指衛生，個人防護具の使用法，針刺し・体液曝露後の対応，医療廃棄物の分類，肺結核のトリアージ，インフルエンザ対策，発熱患者への対応（感染症に関する鑑別疾患や必要な検査など）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) その他の改善のための方策の主な内容： ・細菌検査室ミーティング（血液培養新規陽性例および薬剤耐性菌等の検出例について情報共有し、必要時は発生部署への介入） ・ICTIによる院内ラウンド（環境，耐性菌，抗菌薬の使用状況） ・感染症ニュースレターの発行 ・ポスター掲示（手指衛生，咳エチケット，インフルエンザ予防）	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容： 平成28年10月3日 抗がん剤の曝露対策について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： ・ 医薬品の採用、購入、管理 ・ 各部署への供給、管理、使用 ・ 医薬品情報の収集、管理、提供 ・ 医薬品の廃棄 ・ 管理の必要な薬剤のマニュアル (麻薬、血液製剤、持参薬、サリドマイド関連薬)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品安全管理委員会の開催 (1回/2ヶ月) 医療安全管理委員会との連携 (1回/月)	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 12 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 新規導入医療機器については、使用予定者に対する研修を導入時に実施（実績 5 回）。</p> <p>② それとは別に、生命維持管理装置を中心とした、病棟や ICU などで使用頻度の高い機器の研修を実施（実績 7 回）。</p> <p>※ 研修内容については、当該医療機器の有効性や安全性、使用方法、保守点検、トラブル対応などを含む</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>生命維持管理装置はもちろん、電気メスをはじめとする高エネルギー装置や、病棟使用頻度の高い輸液・シリンジポンプなどそれぞれの機器に合わせた点検方法を設定し、保守点検計画に則ったスケジュールにて実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>主に医薬品医療機器総合機構の供する同情報提供ホームページやメール配信サービスなどを利用し、併せて医療機器メーカーからの提供情報も収集して、該当機器については確認及び部署への連絡を実施している。</p> <p>また、各団体や厚労省などの公的な通達についても、総務 G を通じて各部署に資料を送付し、必要に応じて医療機器安全部門からも再度周知している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・責任者の資格 (<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input type="checkbox"/>歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門の副院長が医療安全管理責任者として配置、活動。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (2 名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>DI 担当者を中心に、各MR、PMDA、MDバンク等からの情報を整理。 院内掲示板、薬事ニュース等で周知。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>各種委員会の承認内容や届け出情報を収集し、処方せんや電子カルテのコメント表示、病棟薬剤師からの報告等で対応する</p> <p>・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無)</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：薬局 ， 職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームドコンセントを得る際の注意、説明すべき項目、説明・同意文書</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：診療録の記載内容の確認を定期的に行い、十分でない事例が認められた場合は必要な指導を行っている。</p> <p>また、診療管理委員会を開催し、診療記録の充実を図り、医療安全の資することを目的に活動している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

☑・無

・所属職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（9）名

うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（5）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

インシデント報告書の分析、背景要因等の調査、再発防止策の検討及び院内周知

医療安全に関する職員の教育、研修の企画及び実施・評価

担当医療安全管理者（リスクマネージャー）会議を毎月1回開催

定期的な部門会議の開催

医療安全管理に係わる連絡調整

医療安全確保のための対策の推進

事故等に関する診療録や看護記録等の確認と指導

事故発生時の患者等への説明など対応状況についての確認と確認結果に基づく従業者への指導

事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と指導

医療安全管理委員会等で用いられる資料及び議事録の作成と保存

医療安全管理委員会の庶務に関すること

医療安全に資する診療内容のモニタリング

院内全死亡症例の検討

医療安全管理マニュアルの改訂

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☑・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☑・無）

・活動の主な内容：平成29年1月31日部門設置、実績なし

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・ 無)

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・ 無)

・ 活動の主な内容：平成 29 年 1 月 13 日部門設置、実績なし

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況 (平成 29 年 10 月 1 日時点)

・ 無

・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 (8/18 実施済、2/16 実施予定)

・ 活動の主な内容：

医療法施行規則第九条の二十三第 1 項第九号に基づき、特定機能病院の医療安全管理の取り組み状況について監査を行い、必要に応じて是正措置を講じるよう管理者へ意見する。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・ 無) 8/18 実施結果をHPに 10/16 掲載予定

・ 委員名簿の公表の有無 (・ 無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由、そして業務実施結果を法人のホームページに掲載する。

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
北村 温美	大阪大学医学部 附属病院中央 クオリティマ ネジメント部 副部長	○	大学病院において医療安全管理に必要な実質的な業務の従事経験を有するため。	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
三浦 潤	弁護士		主に民事部の裁	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1

			判官として損害賠償請求を通じ数多くの医療事故事案の審理経験を有するため。		
三木 祥男	大阪がん患者団体協議会会長		府域のがん患者と家族のQOL向上に向けた豊富な活動経験を有するため。	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

C

C

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 154 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 70 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 医療事故調査委員会・医療支援チームの設置
 - 医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び対応の検討
 - 重大な医療事故発生時の速やかな発生原因の分析・再発防止策の立案及び実施並びに職員へ周知
 - 院内全死亡症例および管理者が定める水準以上の事象の報告の実施状況の確認、確認結果の管理者への報告
 - 院内全死亡症例および管理者が定める水準以上の事象の報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導
 - 病院機構本部・日本医療機能評価機構等への報告
 - 医療安全管理マニュアル等の作成・変更
 - 医療安全に関する職員の教育及び企画・運営・評価
 - 医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検・安全使用に関すること
 - 医療安全管理部門から臨床経過を検討した死亡症例の報告を受ける
 - 医療安全管理委員会で出された対策の実施状況の調査と見直し
 - 「医療にかかる安全管理のための指針」の作成と見直し

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：国立循環器病研究センター病院）無）
12月12日予定
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：大阪市立大学医学部附属病院）無）
11月30日予定
- ・技術的助言の実施状況
平成29年度から実施

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者相談支援室にて投書があった場合、医療安全管理マニュアルに従い、必要に応じ医療安全管

理部門に通知する。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (・ 無)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (・ 無)

⑭ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

全職員対象

- ・ 第1回「インシデント報告、重大な医療事故発生時の対応」
- ・ 第2回「医療安全管理責任者からの報告」
「新・インシデント報告システム【ファントルくん】」
- ・ 第3回「深層理解に基づく医療安全」

その他

- 「新規採用者医療安全研修」「新規採用者BSL研修」「ICLS研修」
- 「医薬品安全研修」「人工呼吸器・心電図モニター取り扱い研修」
- 「病棟・外来クラーク研修」5センター合同「医療コンフリクトマネジメント研修会」等

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

【管理者】

日時：平成28年11月24日（木）10時～17時20分

会場：サンケイホールブリーゼ

研修会名：平成28年度「医療安全に関するシンポジウム」

研修テーマ：患者安全教育～患者が主役の医療安全教育をめざして～

【医療安全管理責任者】

日時：平成28年4月14日（木）13時～15時

会場：リーガロイヤルホテル大阪

講習会名：第116回日本外科学会定期学術集会 特別企画（3）

講習演題：「外科医に求められる医療安全 —医療事故調査制度の開始にあたって—」

講師名：司会 松原久裕（千葉大学）・渡辺聡明（東京大学） 他演者7名

日時：平成29年4月28日（金）13時30分～15時30分

会場：パシフィコ横浜

講習会名：第 117 回日本外科学会定期学術集会 医療リスク（2）「上部消化管外科」

講習演題：「これからのリスクの高い外科医療の提供」他

講師名：司会 夏越祥次（鹿児島大学）・後信（九州大学） 他演者 4 名

【医薬品安全管理責任者】

日時：平成 29 年 3 月 18 日（土）5.5 時間

会場：東京ビッグサイト

講習会名：平成 28 年度患者安全推進全体フォーラム

講習演題：（1）部会活動にまつわる最近のトピックス

（2）リーダーシップとチームマネジメント

【医療機器安全管理責任者】

日時：平成 29 年 2 月 18 日（土）12 時 55 分～16 時 20 分

会場：大阪テイジンホール

講習会名：第 16 回医療機器安全対策研究会

テーマ：チームで取り組む医療機器の安全

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
平成25年6月7日 公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価Ver.6.0 認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
1) ホームページによる積極的な情報発信 各部門案内：診療科毎に高度・先進医療等の積極的な取組みを紹介 例) 広範な食道ESDやPDT（光線力学療法）、外科、内科、放射線科と連携した集学的治療の実践 臨床研究と治験：併設研究所との連携や臨床研究、治験への積極的な取組みを紹介	
2) 医療機関向けに診療科の高度先進医療を実施する診療体制等の情報を紹介する冊子の作成配布（2,583部）や地域医療連携室だより（4月、7月、9月、2月）の作成配布（2,612部）、症例検討会の開催（6月、11月、2月）、病診連携ネットワーク講演会の開催（5月、10月）	
3) 患者向けに公開講座（年4回）や各種セミナー等を通じた高度先進医療等の情報提供の実施	
4) 医師を中心にテレビ等のマスメディア出演 平成28年度 35件	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
1) 膵がんセンター 外科、内科、放射線治療、看護部などで構成。膵がんキャンサーボードの定期開催や患者向け膵がん教室等も開催している。 難治性である膵がんの制圧に向けて迅速診断、的確な治療方針の提案への取組みを推進している。	
2) その他 栄養サポート、緩和ケア、褥瘡ケアチームなどでは、それぞれ複数の診療科が連携し、チームを構成して診療や患者さん対応に取り組む体制を確保。	